

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100159		
法人名	社会福祉法人恵康会		
事業所名	グループホームひかりの丘		
所在地	福岡県北九州市門司区上藤松3丁目2-1 (電話) (093) 382-3111		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 20 日	評価結果確定日	平成 26 年 3 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の尊厳を大切に、また元気で安心して安全に生活が送れるよう健康管理、室内の環境整備等に配慮しています。
・室温や湿度の調整 ・口腔ケアの徹底 ・栄養状態の把握 ・適度な運動の促し等。ご利用者の生活の場を職員が管理するのではなく普通の日々がご利用者、職員共に自然体で送れるよう雰囲気作りを大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 26 年 1 月 16 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体法人の本部長が歯科医師であり、口腔常在細菌に注目して口腔ケアの徹底を実践して、高齢者の敗血症、虚血性心疾患、インフルエンザ等の感染性、誤嚥性肺炎のリスク軽減に効果をあげている。利用者が風邪に罹患しにくく、嚥下機能の維持による刻み食の対応者がいないという実効が現われている。歯科衛生士が常駐しており、口腔ケアの研修も行われ、毎食後の口腔ケアの質の向上と実践に活かされている。介護の面でも理学療法士の協力を得て自立歩行への取り組みを行っており、効果をあげている。管理者と職員の中間に位置するユニットリーダーのシステムや併設の地域密着型の法人との連携が相乗的に機能し始めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和やか」「笑顔」「慈しみ」を理念に掲げユニット入口に掲示し職員が共有しながら日々の業務にあたっている。	法人理念に加え、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた運営方針が作成されている。ミーティングや会議等で確認を行い、その共有と実践に勤めている。さらにユニットごとにおいても具体的目標を立て日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。地域主催のお祭りやふれあい文化祭等に参加し交流を図っている。	自治会に加入し、地域行事に参加したり、日常生活の中で民生委員が立ち寄りなど地域社会が感じられるように取り組んでいる。日頃から法人紙を定期的に配布したり、草取りなどの清掃活動、地域の文化祭への作品出展など継続した内容となっている。学生の職場体験や実習の受け入れも定期的に行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設されている特別養護老人ホームと小規模多機能型居宅介護と合同で2か月に1回行っている。会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受けサービス向上に役立っている。	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所等との合同で、利用者・家族・地域包括支援センター職員・民生委員の参加を得て開催されている。防災訓練、利用者やサービスの現状の報告、介護サービスの質等について意見交換を行い、より良い介護の提供に努めるとともに適切な運営に役立っているようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時、サービスの取り組みや空床状況等お伝えしている。	行政に対する働きかけとして、法人紙を郵送したり、行政主催の研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し合い職員間で意識を持ち業務に就いている。必要のない鍵は、使用できないよう鍵穴を伏せている。	身体拘束廃止に関するマニュアルに基づき、定期的に内部研修を行っている。全介護職員が参加し身体拘束廃止について認識を深めている。職員は利用者の外出傾向を把握し、職員間で見守り、声かけをしている。居室及び玄関は施錠せず、チャイム等もできるだけ使用しないようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に、心理的虐待は見過ごされやすいため、声掛けや言葉使い等、職員間で注意し合い、また、ミーティングでは一人ひとりに合ったケアの対応を検討している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、個々に必要性のある方はご家族が対応されている。今後必要な時に支援できる体制を整えていきたい。	契約時、利用者や家族に対しては、テキスト・パンフレットなどを用い、権利擁護に関する制度についての説明を行っている。また順次、職員は外部研修に参加し、ミーティング等で伝達を行っている。利用者・家族が必要になった際は、介護職員も概要説明はできるようにし、詳細は管理者が対応するようになっている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時、何でも言えるような雰囲気づくりに留意している。入口玄関に意見箱を設置している。	日常的に職員が意見や要望を聞くようにしているが、家族会（年1回）や意見箱の設置、利用者・家族等の運営推進会議参加、市の派遣する介護サービス相談員の来訪など、利用者・家族の意見を多く取り入れる体制をとっている。収集された意見については日々のミーティングや運営推進会議で検討され運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者、施設長、管理者、各事業所のリーダーと月1回、運営推進会議を開催し意見交換を行っている。	管理者は、日頃から職員に対して声をかけるようにすると共に、ユニットごとに行われるミーティングやリーダー会議、事業所運営会議に参加し、広く意見を求めるようにしている。行事イベントの企画をはじめ、より良い職場作りについて、職員の気づきやアイデアを取り入れるように努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や有給休暇を取りやすい環境作りを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の意向や体力面などを考慮し、各事業所への配置を行っている。また、本人の能力が発揮できるよう配置転換も行っている。	職員の採用は法人として行われているが、適性を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また、採用後も、職員の資格取得支援を行うとともに、適正な配置転換・昇進についても十分検討しながら取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行い、一人ひとりの人権に対する意識を高めている。	全職員が利用者の人権を尊重するために、人権教育や啓発活動に関する内部研修が行われている。また、外部研修への参加も行われており理解を深める機会も設けられている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修になるべく多くの職員が受講できるように勤務調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者と交流する機会は設けていない。今後は、市町村単位の連絡会などサービスの質を向上させていく目的で結成されている会への参加を促していく。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人にお会いし本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるよう関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を十分に聞き事業所で対応ができる内容を事前に話し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に関わっていたサービス関係者の方々にも情報をいただき本人が困っていることや今後の支援について検討し対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重しお互いが協働しながら穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や家族会を開催し、お互い意見が出しやすい環境を作り、ご家族と一緒に本人を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の関わりの中、会話の中で馴染みの場所等を把握し、外出時に立ち寄りしたりしている。	職員は、利用者の生活習慣や馴染みの人を把握し、日常生活のなかで、馴染みの方との触れ合いや馴染みの場所への外出などの機会を持ちながら支援を行っている。利用者の友人や知人も高齢となってきたのが現状であるが、できる範囲で関係性を保てるよう連絡を取りもっている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係がうまくいくように、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる時間を作っている。時には職員が調整役となって支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、支援の内容、注意点が重要な点について情報提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声掛けを行い把握に努めている。困難な場合は、家族に相談をし情報を得ている。	日頃からの関わりによる観察と試行錯誤の蓄積により、仕草や表情で思いや意向の把握を行い、職員全員で共有している。利用者の要求や排泄等の意思表示についてよく検討し、把握している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	改まってお尋ねすると思いが難しく日々の会話からさりげなく聞くことで把握に努めている。また、家族にも協力を得ている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせその日の体調に応じて過ごしていただいている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは面会時や介護計画書作成時に話し合いを行っている。また、ミーティング等で常に職員間でケアに対する話し合いを行い計画に反映させている。	ミーティングにおいて担当者を始め職員全員で話し合い、ケアマネジャーが原案を作成し、管理者・ケアマネジャー・ユニットリーダーで構成される会議での検討を経て、家族との意見を調整して作成している。6ヶ月に1回の見直しを行っており、状況変化時きめ細かに対応している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容をパソコンに入力し職員間で情報の共有を図っている。入力された記録を参考に介護計画書作成時に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてご家族と相談しながら対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や施設での催し物に地域の方に参加していただき交流しながら暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の要望するかかりつけ医に送迎や状況に応じて付き添いも行っている。	本人や家族が希望する医療機関への受診支援を行っている。家族の付き添いでの受診だが、状況に応じては職員が付き添いを行っている。情報の伝達方法についても家族等と取り決めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変化があった時は、訪問看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や相談を行い、できる限り早期に退院できるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に説明し事前説明を行っている。	利用者が重度化した場合や看取りの対応について指針を明文化し、サービス利用開始時に家族に説明し契約書を交わしている。状態の変化に応じて家族と緊密に連絡を取り合い、職員もその方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについてケースの想定をしながら話し合いを行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、利用者とともに避難訓練を行っている。地域体制は運営推進会議を通じて協力を呼び掛けている。	年2回、消防署の協力も得て避難訓練を実施している。地域住民への呼びかけも行い、民生委員の参加を得ている。非常用備品の備蓄も事業所内に行っている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという認識を持ち、言葉使いや声を掛けるタイミングなどに配慮している。	担当者が外部研修を受講し、内部で伝達研修を行っている。プライバシーに配慮したケアに努め、問題があれば管理者やユニットリーダーが、その都度注意し改善指導を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出やレクリエーション活動など、本人の意向を尋ね自己決定ができるよう働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、レクリエーション活動などその時の状態を見てご利用者のペースで行えるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、髭を剃るなど身だしなみが整えられるよう支援している。ご自分で好みの洋服を選ぶことが困難な場合は、ご家族や職員で選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食や食事作りを行い、食事作りでは役割を決め、準備から調理まで職員と一緒にできることを行っている。	職員と利用者は同一テーブルで同じ内容の食事を一緒に摂っている。片付等も能力に応じて利用者が手伝っている。ご飯は毎食事業所内で作られている。誕生会には希望するものを事業所内で作っている。また定期的に、利用者が希望するメニューを職員と利用者が一緒に料理する催しを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックして不足している方にはその都度、水分を摂取していただいている。また、特に朝食の時間は、本人の習慣に応じた対応を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設内研修の一環として口腔ケア研修に参加している。研修で正しい口腔ケアの手順を習得しご利用者に適切な口腔ケアを行っている。ご利用者がご自分でできるところはいただき職員が手直しを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを掴むように努め時間ごとのトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を用いたデータの蓄積により、利用者一人ひとりの排泄パターンを職員が把握して誘導している。おむつやパットの使用についても、職員間で逐次検討して枚数の軽減をはかっている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や施設内での歩行訓練を行い、水分量が少ない方には、水分補給を促している。主治医に相談し必要に応じて下剤を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の状態に合わせて入浴の可否を決定している。拒否が見られた場合は、時間を変更したり翌日に声掛けを行うようにしている。	日曜日を除き毎日の入浴が可能で、午前10時30分～11時30分・午後1時30分～3時30分に入浴を設定している。入浴拒否者には担当職員を変えたり、声かけ時間をずらすなど工夫が見られる。季節に応じた柚子湯、菖蒲湯、薬湯等にも取り入れ、入浴が楽しめる工夫をしている。	入浴の時間帯を区切らず、毎日でも利用者の状態や希望に応じて入浴ができる体制を築いて欲しい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に応じて居室やお気に入りの場所でくつろげるようにしている。地域交流サロンの量の場も活用している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表をファイルし、いつでも見れるようにしている。また、薬のセット、服薬担当者、飲み忘れの確認をする職員を分けて誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみなどできることをしていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中、天気の良い日などバルコニーを散歩したり、定期的にドライブを兼ねて外食に出掛けている。	利用者が要望する外食やこれまでに生活していた場所などへも希望によって連れ出している。市場に行きたいと言う要望にも応えて職員と一緒に出かけ、店の人と会話をする機会を設けている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご家族がされている。お金を所持し使うことは困難である。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応するようにしている。また、ご家族からの電話もご家族が希望された時にお繋ぎしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々、フロアに飾り付けを行い楽しんでいただいている。ソファを配置しゆったりと過ごせる環境作りを行っている。	季節に応じた飾りを設えたり、ソファの移動を行い、太陽光の入射角に配慮している。食事時にはオルゴール風の音楽を静かに流し、食事をゆっくりと楽しめるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルの配置を安全面等を考慮し工夫している。気の合うご利用者同士、話がしやすいよう環境を整えている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や本人のなじみの物を本人、ご家族と相談し配置している。 身体機能に合わせ、環境整備に努めている。	仏壇や位牌、椅子、テレビ、ラジオ、筆筒、家族写真など馴染みのものが持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには、段差がなく壁には手摺が設置されており、安全が配慮されている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和やか」「笑顔」「慈しみ」を理念に掲げユニット入口に掲示し職員が共有しながら日々の業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。 地域主催のお祭りやふれあい文化祭等に参加し交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設されている特別養護老人ホームと小規模多機能型居宅介護と合同で2か月に1回行っている。 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受けサービス向上に役立っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時、サービスの取り組みや空床状況等お伝えしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し合い職員間で意識を持ち業務に就いている。必要のない鍵は、使用できないよう鍵穴を伏せている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に、心理的虐待は見過ごされやすく感じ、声掛けや言葉使い等、職員間で注意し合いました、ミーティングでは1人ひとりに合ったケアの対応を検討している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、個々に必要性のある方はご家族が対応されている。今後必要な時に支援できる体制を整えていきたい。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時、何でも言えるような雰囲気づくりに留意している。入口玄関に意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者、施設長、管理者、各事業所のリーダーと月1回、運営推進会議を開催し意見交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や有給休暇を取りやすい環境作りを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、本人の意向や体力面などを考慮し、各事業所への配置を行っている。また、本人の能力が発揮できるよう配置転換も行っている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>施設内研修を行い、1人ひとりの人権に対する意識を高めている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修になるべく多くの職員が受講できるように勤務調整を行っている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、同業者と交流する機会は設けていない。今後は、市町村単位の連絡会などサービスの質を向上させていく目的で結成されている会への参加を促していく。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用について相談があった時は、必ず本人にお会いし本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるよう関係作りに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の意向を十分に聞き事業所で対応ができる内容を事前に話し合っている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に関わっていたサービス関係者の方々にも情報をいただき本人が困っていることや今後の支援について検討し対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重しお互いが協働しながら穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や家族会を開催し、お互い意見が出しやすい環境を作り、ご家族と一緒に本人を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の関わりの中、会話の中で馴染みの場所等を把握し、外出時に立ち寄りたりしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる時間を作っている。時には職員が調整役となって支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、支援の内容、注意点が重要な点について情報提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声掛けを行い把握に努めている。困難な場合は、家族に相談をし情報を得ている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	改まってお尋ねすると思い出すことが難しく日々の会話からさりげなく聞くことで把握に努めている。また、家族にも協力を得ている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせてその日の体調に応じて過ごしていただいている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは面会時や介護計画書作成時に話し合いを行っている。また、ミーティング等で常に職員間でケアに対する話し合いを行い計画に反映させている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容をパソコンに入力し職員間で情報の共有を図っている。入力された記録を参考に介護計画書作成時に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてご家族と相談しながら対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や施設での催し物に地域の方に参加していただき交流しながら暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の要望するかかりつけ医に送迎や状況に応じて付き添いも行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きや変化があった時は、訪問看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や相談を行い、できる限り早期に退院できるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に説明し事前説明を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについてケースの想定をしながら話し合いを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域体制は運営推進会議を通じて協力を呼び掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導等、小声で声掛けをし自尊心を傷つけないように心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的に訪問セブンイレブンを利用し、商品を選んで頂くことで本人の好みを把握している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者1人ひとりの体調やペースに合わせたレクリエーションを行うと共に会話の場を多く持つように心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時の洋服を本人と一緒に選びおしゃれを楽しんで頂くよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時ご利用者と同席し見守りを行いながら食事をしている。また、ご利用者と共に食事を作る機会を持ち、得意な分野をを担当してもらうようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者1人ひとりの好みに合わせ、習慣や様子を把握しながら1日を通じて食事の量や水分を必要摂取できるように支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを一部介助または全介助で行い磨き残しがないかチェックをしている。歯科医、歯科衛生士の定期的なチェックも行われている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。トイレでの排泄を目標に職員全員で取り組んでいる。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取や適度な運動を促し予防対策を図っている。便秘時には主治医の指示を受け対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々それぞれ、午前・午後の希望に添って声掛けを行っている。温度調整も本人の好む温度に設定し、時には入浴剤を使用しいつもと違う入浴を楽しんでいただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・湿度を整え居室の環境を安眠・休息がとれるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各々が内服薬の把握と副作用で起こりがちな症状を観察し医師に報告している。薬ケースを職員2名で相互確認、服薬担当者を決め、服薬時ご利用者の名前、日付けを声に出し本人確認を行い誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感を感じることができるよう、外出や散歩を取り入れている。 ご利用者個人に合った生活レクリエーションを行い、洗濯物たたみや台所仕事を分担している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい時期を見計らい外出している。 季節の移り変わりを肌で感じ気分転換が図れるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は、訪問セブンイレブン来所時等、ご自分で現金を持ち買い物をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に連絡を希望される時には希望に添うようにしている。 一部の方は、ご家族からの携帯電話を所持しており、要望に応じて対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じて机の配置や席替えを行い利用者が穏やかに過ごせる工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の移動を自由にし、行きたい所に行き気の合った者同士楽しく過ごせる工夫をしている。また、ソファでゆっくりくつろいで頂ける空間を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの（自宅から持って来られた物）を身近に置き、できるだけ自宅に近い環境にしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に余分な物品を置かず安全に移動できるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない